

日本語とスペイン語の受動文

高垣敏博

【目的】類型論的に異なる2言語の受動文体系が統語・意味論的類似性を見せる。一方、その使用状況・使用率では大きな違いがあることを示す。

0. はじめに

- (1)a. 私はそのことで親に叱られた。 受影受動文
 b. La puerta fue abierta por María. 迂言的受動文 (ser 受動文)
 The door was ("ser") opened by María 「ドアはマリアによって開けられた」
- (2)a. 答案用紙が回収された。 降格受動文
 b. Aquí se venden postales. 再帰受動文 (se 受動文)
 Here SE sell post cards. 「ここで絵ハガキが売られている」
- (3)a. 啄木の素朴な短歌は、多くの人々に愛されている。 属性叙述受動文
 b. María es amada por todos los vecinos.
 María is loved by all the neighbors. 「マリアは隣人みんなに愛されている」

1. 昇格受動文

日本語 (受影受動文)

- (4) 僕は部長に転勤を命じられた。
- (5)a. 花子が太郎に殴られた。
 b. 鈴木さん {は/?が} 部下に突然辞められた。
 c. 花子は子供に泣かれて、よく寝られなかった。 以上益岡(1991)
- (6)a. 和夫の企画は、課長に一蹴された。 志波(2005)
 b. あの絵は子供に引き裂かれた。 益岡(1991)
- 1.1 主語 ①被動者の主題化 (> 動作主の非主題化→ニ格)
 ②直接受動文・間接受動文
- 1.2 視点制約 視点ハイアラーキー 久野(1986)
 a. 人間>動物>無生物
 b. 主題>非主題
- 『非情物主語+有情者ニ格名詞句』を排除」(坪井 2002:66)
- (7)a. *この辞書はジョン・スミスに改訂された。
 b. 白いボールが {*王に/王によって} 高々と打ち上げられた
 c. ??その林檎は、太郎に食べられた。 以上久野(1986)

1.3 二格動作主

明示率約 60% (志波 2004) — 「行為者の有責性」 (坪井 2002)

スペイン語 (ser 受動文)

- (8) [被動者_{主語}] + ["ser"_{be 動詞} + 過去分詞] + [por 動作主]
- (9)a. María abrió la puerta. (abrió: "abrir" 「開ける」完了過去)
María opened the door 「マリアはドアを開けた」
- b. La puerta fue abierta por María. (fue="ser"の完了過去)
The door was opened by María 「ドアはマリアによって開けられた」
- (10)a. El piloto fue asesinado por el secuestrador. (asesinar 「殺す」)
The pilot was killed by the hijacker
- b. El paquete fue enviado por Juan. (enviar 「送る」)
The parcel was sent by Juan.
- (11) *El libro {fue/ es} buscado por Juan. (es = "ser"の現在; buscar 「探す」)
The book {was / is} looked after by Juan.
- (12) *María es {conocida/amada} por Juan. (conocer 「知る」; amar 「愛する」)
María is {known/ loved} by Juan.

1.4 主語 ①文頭 主題位置

②有生・無生物どちらも OK

1.5 完了性制約

「語彙的に完了相の動詞 (到達動詞・達成動詞) × 完了時制」

(De Miguel 1992, 2004; Mendikoetxea 1999; Sánchez López 2002, Gili Gaya 1973)

到達動詞 *abrir*(open), *asesinar*(kill), *enviar*(send), *recibir*(receive)...

達成動詞 *buscar*(look for), *conocer*(know), *amar*(love), *temer*(hate)...

1.6 por 句

削除率約 60%(活動動詞のみ約 1114 文)=背景化

2. 降格受動文

日本語 (降格受動文)

- (13)a. 会場の近くに臨時の休憩所が作られた。
b. 始業のベルが鳴らされた。
c. ノーサイドの笛が吹かれた。
- (14) *ノーサイドの笛が主審に吹かれた。
- (15) 答案用紙が試験官 {*/に/によって} 回収された。 以上益岡(1987, 1991)

2.1 主語 ①動作主の背景化 (>被動者を主語に: 無題文→ガ格)

②「自動詞と同様に自発表現」, 「事象の生起を中立的な立場から客観的に表現」(益岡 1987, 1991), 「脱他動化」(志波 2005)

③非情物が多い。(益岡 1987:191;志波 2003:200)

2.2 視点制約 なし (久野 1986 ; 志波 2005)

2.3 ニヨッテ動作主

ニ動作主は「存在が含意されるだけで表面には現れない」(益岡 1987:191)

「ニヨッテ受身文」は「能動文と本質的に同義」「中立的」(黒田 1985)

スペイン語 (se 受動文)

(16) María se mira en el espejo. (mirar「見る」) 再帰文

María SE looks at in the mirror. (「自分の姿を鏡に写す」SE=再帰辞)

(17) (Ellos) venden casas. → ~~(Ellos)~~ venden casas. → Se venden **casas**.

They sell(3pl.) houses ~~They~~ sell houses SE sell(3pl) houses

【動作主】 【被動者】 $\dots \rightarrow \phi$ SE V (3pl) 【被動者】

主語 直接目的語 受動辞 受動主語(3pl.)

(18) Se encontró petróleo. (Gómez Torrego 1994:30)

SE found oil 「石油が発見された」 (encontrar「見つける」完了過去)

(19) Estos libros no se venden.

These books not SE sell 「これらの本は販売されません」 (vender「売る」)

(20) Se buscan cocineros con experiencia. →(11) (buscar「探す」)

SE look for cooks with experience 「経験のある料理人が求められる」

(21) Ya se conoce la noticia. →(12) (conocer「知る」)

Already SE knows the news 「そのニュースはもう知られている」

2.4 主語

①非主題化 主語の背景化(消去)が動機。直接目的語が動詞の後(80%)で主語化無題文。

改めて主題化で文頭に立つことも(19)

②脱他動化(=非使役), 自動詞化 出口(1982), 志波(2005), 益岡(1987, 1991)

「他動詞優先言語 再帰表現を発達させてきた」 Gili Gaya(1973)

③無生物 (=3人称)

2.5 完了性制約 なし

2.6 por 動作主 なし

(22) Se firmó la paz por los embajadores. (firmar「署名する」完了過去)

SE signed peace treaty by the ambassadors 「和平は大使たちにより調印された」

3. 属性叙述受動文

日本語 視点制約 (§1.2)解除 (非情主語 OK 総称的なニ格動作主 OK)

「対象を主題化」「その属性を述べる」受動文。(益岡 1987, 1991)

(23)a.この商品は多くの人に親しまれている。

b.鈴木さんは陶芸家として知られている。

(24) この雑誌は、{10代の若者に/*太郎に}よく読まれている。

(25) a.この論文は、チョムスキーに数回引用された。

b.*この小説は、チョムスキーに数回読まれた。 益岡(198), 坪井(2002)

スペイン語 完了性制約 (§ 1.5)の対極 (未完了相動詞+未完了時制)

(27)a.María es {conocida /amada} por todos. →(12) 総称動作主

María is {known /loved} by all

b. El criminal es buscado por la policía. →(11) 総称動作主

The criminal is wanted by the police.

(28) a.El español se habla en más de veinte países. 主題化

Spanish SE speaks in more than twenty countries. (hablar「話す」現在)

b. Los bancos no se abren los sabados. 主題化

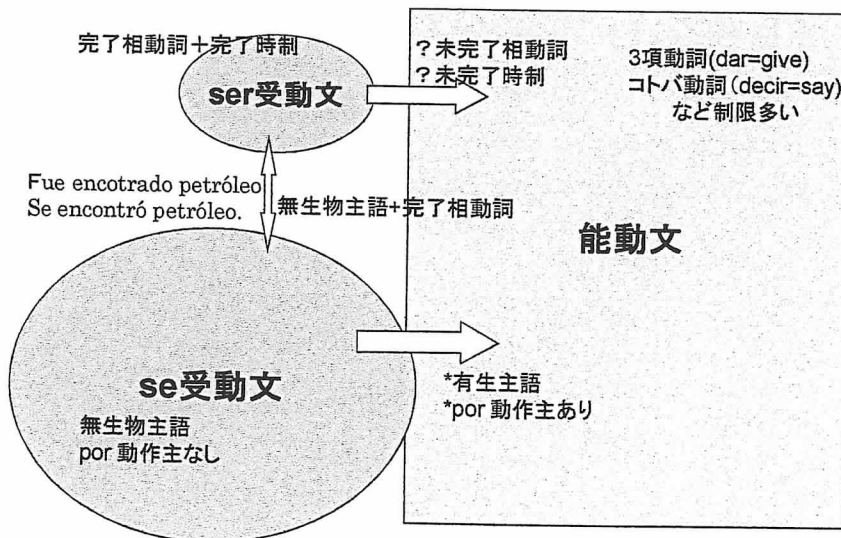
Banks not SE open on Saturdays. (abrir「開ける」現在)

4. 受動文体系：使用における違い

日本語 受動文の生産性の高い (受影・降格・属性叙述)

スペイン語 「能動文を好む顕著な傾向」 Gili Gaya(1973)

= 他動表現 (se 受動文も他動表現)



5. まとめ

文献

- De Miguel, Elena 1992. *El aspecto en la sintaxis: Perfectividad e impersonalidad*, Ediciones de la Universidad Autónoma de Madrid.
- 1999. "El aspecto léxico", *GDLE*, cap.46, Espasa Calpe.
- 2000. "Relazioni tra il lessico e la sintassi: Classi aspettuali de verbi ed il passivo Spagnolo", *Studi Italiani di Linguistica Teorica e Applicata*, 2, pp.201-217. Consiglio Nazionale delle Ricerche.
- 2004. "La formación de pasivas en español. Análisis en términos de la estructura de *QUALIA* y la estructura eventiva", *Verba Hispanica* XII, pp.107-129, Facultad de Filosofía y Letras de la Universidad de Ljubljana, Eslovenia.
- 2009. *Panorama de la lexicología*. (ed.) Ariel.
- Gili Gaya, S. 1973. *Curso Superior de Sintaxis Española*. Octava edición. Vox, Barcelona.
- Gómez Torrego, Leonardo 1992. *Valores gramaticales de "SE"*, Arco Libros.
- Marín, Rafael 2004. *Entre ser y estar*, Arco Libros.
- Mendikoetxea, Amaya (1999) "Construcciones inacusativas y pasivas", *Gramática Descriptiva de la Lengua Española*. 2.1574-1629. Espasa-Calpe.
- Pustejovsky, James 1995. *The Generative Lexicon*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Sánchez López, Cristina 2002. "Las construcciones con se. Estado de la cuestión" (ed. Ignacio Bosque) *Las construcciones con se*, Visor.
- Takagaki, Toshihiro 2005. "On the productivity of the Spanish passive constructions". (Eds. Takagaki et al.) *Corpus-based Approaches to Sentence Structures*. John Benjamins.
- 2009. "El dativo en la construcción doblemente pronominal con verbos intransitivos de movimiento: Un estudio contrastivo del japonés y el español", *Fronteras de un Diccionario: Palabras en movimiento*. (Elena de Miguel 他編. 共著) pp.409-432. Cilengua, San Millán de la Cogolla.
- Tsuboi Eijiro 1997. "Cognitive Models in Transitive Construal in the Japanese Adversative Passive", *Constructions in Cognitive Linguistics* (Ad Foolen et al. eds.), pp.283-300. John Benjamins.
- Vendler, Zeno 1967. *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press.
- 出口厚実 1982. 「スペイン語一再帰形式をめぐって一」『講座日本語学 10 外国語との対照 I』(森岡他編)pp.305-318. 明治書院.
- 早津恵美子 2005. 「現代日本語の『ヴォイス』をどのように捉えるか」『日本語文法』5-2, pp.21-38. 日本語文法学会.
- 川村大 2005. 「ラレル形述語文をめぐって一古代語の観点から一」『日本語文法』5-2,

- pp.39-56.日本語文法学会.
- 久野暉 1986.「受身文の意味—黒田説の再批判」『日本語学』5-2, pp.70-87.
- 黒田成幸 1985.「受身についての久野説を改訂する—一つの反批判」『日本語学』4-10, pp.69-76.
- 益岡隆志 1982.「日本語受動文の意味分析」『言語研究』82, pp.48-64.
- 1987.『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版.
- 1991.「受動表現と主観性」『日本語のヴォイスと他動性』(仁田義雄編) pp.105-121. くろしお出版.
- 2000. (編)『日本語文法の諸相』「第5章叙述の類型から見た受動文」,くろしお出版.
- 野田尚史 1997.「日本語とスペイン語のボイス」『日本語と外国語の対照研究 V 日本語とスペイン語(2)』pp.83-113. 国立国語研究所
- 志波彩子 2005.「2つの受身」『日本語文法』5-2, pp.196-212.日本語文法学会.
- 2003 「日西受身表現の意味機能(1)—主語と動作主の現れ方をめぐって—」『スペイン語学研究会』18, pp.61-85.東京スペイン語学研究会.
- 高垣敏博 2000 「<estar+過去分詞>と<テイル文>—結果相解釈をめぐって—」『日本語と外国語との対照研究 VI 日本語とスペイン語(3)』pp.67-93. 国立国語研究所.
- 2004.「スペイン語受動文の生産性について」『スペイン語学論集：寺崎英樹教授退官記念』, pp.72-82, くろしお出版.
- 2009.「スペイン語の”ser 受動文”一定形と不定形」『東京外大論集』79号, pp.225-246.
- (印刷中)「スペイン語の“ser 受動文”—活動動詞をめぐって」『東京外大論集』81.
- 松下大三郎 1930.『標準日本口語法』勉誠社.
- 田中裕司 2002.「動作主句の随意性と受動文の類型」『事象と言語形式』筑波大学現代言語学研究会編, 7章, pp.199-226,三修社.
- 寺崎英樹 1999.「日本語と対比したスペイン語の受動表現」『東京外国語大学百周年記念論文集』pp.59-76.
- 坪井榮治郎 2002.「受影性と受身」『認知言語学 I:事象構造』(西村義樹編) pp.63-86.東京大学出版会.